

---

# D.Project

蛭村

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

D・Project

### 【コード】

N6350I

### 【作者名】

蛭村

### 【あらすじ】

組織の戦い。アサシンは、術と己の剣で戦いデーモン達を倒していく。世界の終わりとは、死の計画とは？一人の青年が、強くなっていく物語。

## 001アサシン

「こちら、ジャッカル。デビル部隊との交戦中！早く応援を頼む、このままだと押しきられる！」

2005年 10月D・projectが実行された日。俺は、この日の事を忘れない。あの忌々しい悪夢を……。ここは、小さな国日本。俺はこの日、親と一緒に店で夕食を食べに来ていた。急に、外が騒がしくなったかと思うと、それはいきなり始まった……。

「速報です。只今、東京中心部にて大規模な爆発がありました。死者は、多数でている模様です。」テレビからでも騒がしさが伝わってきた。「中継繋がっております。谷川さん！どうぞ！」キャスタ―の人が言うと、中継へ切り替わった。「こちら、谷川です。みての通り地面に直径約100mの穴が空いています。これは、大規模なテロなのでしょうか？一体、何が起こっているのでしょうか。おや、ななな何でしょうか！？あは、、、！ぎゃああああ……。」「生中継が一度切れてしまった。「映像の乱れ失礼致しました。中継車のほうにトラブルがあった模様です。只今、新たな速報です。国家直属の部隊アサシンが、動いていると情報入りました。国民の皆様ご安心して下さい。また、情報お分かり次第お伝え致します。02ニュースでした。」速報ニュースが終わった。「何か、あったみたいだな。騒がしいし混まない内に家に帰ろうか、レン。」父は、そう言うのと会計を直ぐに済ませて俺を車に乗せた。車で家に向かう途中、信号で止まっているとその爆発は急に起きた。「何だ！！」父が、そう叫び外に出た瞬間だった。父の首が飛んだ。俺には、何が起きたのか理解出来なかった。父は、そのまま倒れ込んでいった。辺りは、爆発と人の死により混乱していた。俺は、車の後部座席でうずくまっていた。すると、爆発した方から一人の男がこちらへ向かってくる。男は、全身紫で何も持たずに、こちらへ向かってくる。

俺は、そいつの目を見た時背筋が凍った事を、今でも覚えている。あれは、人の目ではない何か違う生命体の気がした。すると、男が何か言ったと思っただら細くて大きな剣が出てきた。俺は、何故か男が次に言った言葉ははつきりとわかった。「デモンズソウル」男は恐ろしいほど姿形が変わっていた。まるで、獣いや鬼のようだった。細くて長い剣を振り回し、人々を殺していく。みるみる内に、交差点が血の海になっていく。奴は、こちらに気付くと口を大きく開けると、そこへ黒いエネルギーが溜まっていく。そのエネルギーを、放ってくるのであった。その得体のしれないエネルギーが、当たると思っただ瞬間それは起きた。

「戦う時だ。マリア！」そう聞こえたかと思うと、身長のかなんない人が剣でエネルギーを弾き返した。「こちらジャツカル！紫色のボディだ。間違いない、奴はデビル部隊所属のアサシンだ。」ジャツカルという黒人は、赤色の服を着ていた。デビル部隊だとか、アサシンドとか、俺には全く理解が出来なかった。俺には、恐怖で車の中から立ち去る気力も残って居なかった。「お前は、そこで大人しくしている。俺の名はジャツカル。ジャツカル・エバンスだ。国家直属の部隊アサシンのレッド隊No.4だ。そこで大人しくしてろよ。」そういうと、黒人の男は鬼に向かっていった。「これは、やはりなそういう事か……。早く終わらせてもらうぜ！！出でよ紅蓮の炎！くらえ火球連！」男は、左手から炎を出した。人間にこんな事ができるのか？皆、化物じゃないか。これは、いったい。紫色の鬼は、炎をくらってもびくともしていない。「ががががあああああ！！」再び長い剣を鬼は振り回し始めた。「これじゃあ、ラチがあかない。下級の術では無理か。仕方ない。マリアよ、奴を倒そうぞ。熱い魂よ、天を焼け地を焼け、燃えさかれマリア！」そういうと、剣が炎の剣に変わった。「一撃で死ぬなよ。デーモン……。一閃！」「そういうと、炎の剣の斬撃が横一直線に鬼を襲った。「ごあああああああ。」鬼は、真つ二つに切れた。「騒がしい奴だったな。こいつの被害は、大きかった。まさか、現世にデーモンが出てくる

とわ。ん、新たな敵襲か？でかいなこの鬼力。つち、3体くるか。何とか、食い止めるか。おい、その人間達早く逃げる。巻き沿いにあいたくないだろ？言わんこつちやない来ちまったよ。」黒人の男がそう言うと、人々が逃げ出す。俺は、逃げられなかった。完全に腰が抜けてしまっていた。「ふふふ。君が、アサシンかね。レッド部隊か。ああ、炎の部隊だったけ？まあ、そんな事はどうでもいい。自己紹介が遅れたね。デビル1部隊長のセラ・デキラトスだ。宜しくアサシン君。」眼鏡を掛けた男が言う。「私は、デビル1部隊副長リアーナ・テンプテスお願いね。」長身の女が言う。「俺が、デビル1部隊N03のグライ・ドーベレだ。」荒い口調の男が言う。「デビル部隊に、何部隊とかあるのか。それは、初めて知ったよ。俺は、アサシン部隊レッド隊N04のジャツカルだ。さあて始めるか。」黒人の男がそうというと、彼等は不敵な笑みうかべる。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6350i/>

---

D.Project

2010年10月8日23時32分発行